

学校だより

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

14925 Memorial Drive, Bldg A, Suite 130, Houston, Texas 77079

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6730 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

いつ? どこで? だれと?

とても静かな一日が過ぎました。8月2日(土)、夏休み明けの補習校校舎内のことです。今年は、一時帰国をした家庭が昨年より多く、事務局に届いた届け出は、70家庭を超えていました。

補習校の授業再開に合わせてヒューストンに戻ってきた人、夏休みを利用して貴重な家族団らんの時間を日本や外国で過ごしている人、進学や編入試験のために塾で夏期特訓を受けている人など様々ですが、それぞれに思い出深い夏を過ごしていることとします。

その思い出を忘れないように、書き言葉、話し言葉で表現させてくれるところが学校です。

私自身の小学校時代を振り返ってみると、担任の先生は、夏休み明けに、必ず私たちにスピーチをさせてくれました。(私にとってはありがたいことではありません。)先生は、「今から、夏休みの思い出を、一人ひとり前に出て話してもらいます。」私は、「えー? どうしよう。」「どんなことでもいいです。」「どんなことでもいいと言われても. . . .」「話をする時間は3分くらいにしましょう。」「そんなに長く話せないよ。」「聞いた人は自由に質問してもいいですよ。」「.」と心の中でつぶやきながら、「何の話にしようかな」と必死で考えたものでした。

大人ならキーワードを探し出し、それに枝葉をつけるようにしながらスピーチの構成を短時間で考えることができますが、子どもたちの中には、恥ずかしくて前を見られず、うつむき加減になり、声が小さくなり、「もう少し大きな声で。」と注意を受ける人もいます。

私は、堂々と話ができる人を羨ましく思ったものでした。



【一生懸命お話ししてくれました】

それから十数年経ち、子どもの心の内を悟りながら、「前を向いて、みんなに聞こえるように話をするんだよ。」と指導し、「恥ずかしいかもしれないけれ



ど、だんだん慣れてくるからね。”と心の中で発表者を励ます側になりました。発表者が必死になって学級の友だちにわかってもらえるように話をしている様子から、より一層、子どもたちへのいとおしさを実感したものでした。

そして、それから何年か経過した先週の8月2日、一生懸命お話をするとそれを支援する先生の様子を見た時は、2人の心の中は、あのときの自分と同じであるかのように感じてなりません。

さて、国内同様、補習校においても、学年の高低にかかわらず、休み明けの1時間目は、各学級で「夏休みは何をして過ごしたのか。」「みんなに知らせたい出来事は。」などを伝え合ったことでしょう。

話す力

東京都の公立小学校6年生へのアンケートで、6割が「話すことに苦手意識を持っている。」という結果が出ていました。

コミュニケーションの図り方や日常の会話などは、家庭の影響が大きいと思いますが、学校では、学級や学校全体という家庭より大きな枠の中で自分を表現しなければなりません。「話す力」をつけさせるためには、子どもの発達段階に応じて具体的にどのように話すのかを教え、1分間スピーチなどの実践を繰り返すことが何より大切です。

場面によって声量を変えたり、語尾を明瞭に話したりすること。同じ言葉の繰り返しや、「えーと」や「あのう」などの口癖を直すこと。メモを効果的に活用すること。相手を意識して、聞き手の目線に合わせて話しかけること。など指導のいくつかが浮かんできます。

私たち教師は、どのように話すのかを子どもたちに教えるとともに、常日頃から、正しく豊かな言葉の使い手、表現者でなければなりません。このように考えると、「話す力」をつけさせるためには、教師自ら言語環境を整えていくことがとても重要であると感じました。

夏休みの思い出や出来事のスピーチは、朝夕の学級活動や国語の授業の一部で8月いっぱい続くことでしょう。補習校は、「話す力」をたくさんつけさせてくれるところです。

補習校の歴史(2)

今からさかのぼること36年前、ヒューストン貿易懇話会(ヒューストン日本商工会の前身)から、永井氏(三菱)、水本氏(丸紅) 渋谷氏(東銀)の3名に、総領事館から児玉氏が加わり、補習校発足準備委員会ができました。

補習校を始めるに当たって、児童生徒数の見込み、校舎をどこにするのか、先生はだれにお願いするのか、授業料はいくらにするのか、予算は?事務局は?児童生徒のクラス分けは?・・・ニューヨーク補習授業校を参考にしながら、課題を一つずつ解決していったそうです。

事務員には、当時、総領事館で勤務していた岩佐道良さんに白羽の矢が立ちました。岩佐さんは、児玉領事から、「先生は決まったが、雑務をする人がまだ決まらない。やってもらえないか。」と話しかけられ、事務を引き受けました。事務処理、ベル鳴らし、先生方のお手伝いを含む雑用係に専念し、設立から7年間、無償で裏方に徹してくれました。

1972年(昭和47年)2月1日、ヒューストン日本語教育振興会が発足し、約1ヶ月後、いよいよ、第1回の授業が開始されます。

<初めて授業をしたときのことを教えてください>

1972年3月4日(土)、「ヒューストン日本語補習教室」という名称で授業が始まりました。

校舎は、サウスメインバプティストチャーチ(South Main Baptist Church:4100 Main Street)の一部

を借用しました。いくつかの候補地の中から、総領事館近くという地理的条件、規模、環境の点から決定したそうです。



歴史がある大きな教会です。

幼稚園部、小学部、中学部を設置し、園児児童生徒数50名、6学級編制で教員は4名、複式学級・複々式学級で授業を行いました。変則な学級の組み方で、大変なご苦労をされたことが偲ばれます。

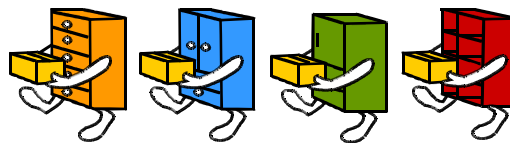
初代の校長先生は永井健雄氏(三菱)。ヒューストン貿易懇話会の会長が校長を兼務しました。

学級担任は、A組 鈴木妙子先生、B組 田中利江先生、C組 船橋 譲先生、D組 軍事一嘉先生でした。

それまで、日本人の子どもたちが50人も一度に集まることがなかったので、岩佐さんの目には、随分多数に映ったそうです。

3回目の授業の時には、教室で見守る保護者がほとんどいなくなったそうですが、初めて授業をしたときには、たくさんの保護者の姿があったようです。

補習校事務所の移転について



本日、事務所移転のお知らせ文書をお子様が持ち帰りました。8月17日(日)に移転をしますので、前日の16日(土)は三水会センター図書館が閉館になります。よって、15日(金)午後5時まで図書館は利用できます。

移転後は、本の整理や機器の接続のために23日(土)から開館いたします。

移転場所は 12651 Briar Forest Dr. Suite105 (Zip:77077) (Briar Forest @ Dairy Ashford) です。

◆パトロール当番予定表 8月16日◆

～よろしくお願ひします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1リーダー	中3	1 1	納 良介
2		1 2	星子 花
3		1 3	河内 杏樹
4		1 4	守屋 陽香
5		1 5	福原 康平
6		1 6	小宮 紗里
★PM1リーダー		1 7	嶋田 瑛治
2	高等部	1	畑中 広信
3		2	古川 葵
4		3	古賀 育子
5		4	ゲッチュ 美希
6		5	岩本 麻衣

<転入>

頗羅墮 凧沙さん(小1B) 高倉 董さん(小3A)
外崎 優作君(小5A) 伊勢 尚輝君(中1)
伊勢 卓矢君(中3)

ようこそ、補習校へ。わからないことがあったらお友だちや先生にたずねてくださいね。一緒に勉強していきましょう。どうぞ、よろしくお願ひします。

<ただ今、何人?>

幼稚園部-47人、小1-33人、小2-43人、小3-37人、小4-34人、小5-37人、小6-28人、中1-22人、中2-14人、中3-16人、高1-9人、高2-7人、高3-3人、合計330人、もう少し増えることが予想されます。